インフレが売上高の伸びを上回り、10月の飲食店売上高は実質0.3％減

名目売上高は0.2％増の929億2,100万ドルとなったが、メニュー価格の上昇率0.5％には届かなかった

2026年11月18日（水）



米国のレストランやバーでは10月も月間売上高が増加したものの、伸び率はメニュー価格のインフレ率を下回り、実質ベースでは減少となった。

米国国勢調査局が火曜日に公表した小売売上高の統計によると、飲食サービス・飲酒施設の季節調整済み売上高は10月に929億2,100万ドルとなり、9月から0.2％増加した。前月からの増加額は2億2,700万ドル。2025年10月と比べると、61億1,600万ドル（7.0％）増だった。

一方、インフレ調整後の状況は弱含んだ。全米レストラン協会によると、米労働統計局の外食価格指数を用いた同協会の試算では、10月の実質売上高は0.3％減少した。同指数は同月に0.5％上昇し、

米国国勢調査局が発表した名目売上高の伸びを上回った。

10月の結果により、名目売上高は9カ月連続で前月比増となった。ただし、前月比0.9%増だった9月からは伸びが鈍化した。最新データは、消費者がレストランやバーで支出する金額は引き続き増えているものの、月間の増加分をすべて上回るほど価格が上昇したことを示している。

米国国勢調査局の統計は、給与を支払う従業員を雇用する飲食サービス・飲酒施設を対象とし、名目額で報告される。そのため、見出しとなる数値には顧客需要の変化と価格の変化の両方が反映される。全米レストラン協会のインフレ調整後の試算は、メニュー価格の上昇分を除き、顧客が実際にどれだけ購入したかを示すことを目的としている。

名目売上高と実質売上高の差は、レストラン経営者にとって重要だ。売上高の伸びだけでは、来店客数や注文量が増えたかどうかは分からない。価格が十分に上昇すれば、顧客の注文量が減っていても売上高は増えることがある。10月の数値は、業界全体がそうした圧力に直面していることを示した。

前年同月比では、増加率は引き続き堅調だった。10月の売上高は前年同月を7.0%上回り、業界が2025年後半よりも多くの収入を生み出していることを示した。しかし、前月比の伸び鈍化とインフレ調整後の減少は、最近の成長が実質ベースで維持しにくくなっていることを示している。

年初から10月までのレストランとバーの未調整売上高は、9,031億800万ドルとなり、2025年の同じ期間を4.8%上回った。この累計額は、食材費、人件費、賃料などの施設運営費が上昇し、消費者が価格に敏感な状況が続くなかでも、2026年の大半を通じて業界が金額ベースで拡大を続けていることを示す。

業界分析で用いたインフレ調整値は、米労働統計局が11月10日に公表した10月の消費者物価報告に基づく。レストラン売上高の数値は、米国国勢調査局が火曜日に発表した小売売上高の速報値による。両報告を合わせると、10月もレストランの報告売上高は増加したものの、外食費の上昇を相殺するには至らなかったことが分かる。